

# 感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況

- 2022年 -

宜保輝 馬場穰太郎 鈴木理央 安藤紗絵子\* 尾上恵子 尾関由姫恵

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2022

Hikaru Gibo, Jotaro Baba, Rio Suzuki, Saeko Ando, Keiko Onoue, Yukie Ozeki

## はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第12条から16条に基づく全国サーベイランスである。この事業は一類から五類感染症、新感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を診断した医師からの届出を受け、感染症の地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し、その情報を速やかに還元するものである。当所では2004年から「感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づく基幹地方感染症情報センターとして、埼玉県における感染症の発生についての情報収集、解析及び提供を行っている。

2022年の感染症発生動向調査事業では、感染症法第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正により、新型コロナウイルス感染症では、抗原定性検査における唾液検体の追加（3月17日）と患者に関する届出項目の追加と削除（6月30日）があった。サル痘（令和5年5月26日、エムボックスに名称変更。）では届出基準における検査方法及び検査材料が改正された（8月10日）。また、新型コロナウイルス感染症については、保健医療体制の強化・重点化のため、全数届出の見直しが行われ、届出対象を①65歳以上の者、②入院を要する者、③重症化リスクがあり、新型コロナウイルス感染症治療薬投与又は新たな酸素投与が必要と医師が判断する者、④妊婦の4類型に限定された。また、感染動向は医療機関による診断総数の日次報告として把握されることとなった（厚生労働省事務連絡「withコロナの新たな段階への移行に向けた全数届出の見直しについて」令和4年9月12日）。今回は2022年の感染症発生動向調査に基づく埼玉県の患者発生状況について報告する。

## 対象及び方法

感染症法に定められる感染症について、埼玉県基幹地方感染症情報センターとしてさいたま市、川越市、越谷市及

び川口市を含む全県域から収集した届出を対象とした。新型コロナウイルス感染症を除く疾患の届出数の集計には、従来と同じく感染症サーベイランスシステム(National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease: NESID)の感染症発生動向調査システムに登録された2023年3月時点の確定数をダウンロードして用い、新型コロナウイルス感染症は埼玉県新型コロナウイルス感染症対策本部で収集した情報を2023年3月時点での暫定値として用いた。なお、全数把握対象疾患は診断日が2022年1月1日から2022年12月31日に属する届出を、定点把握対象疾患のうち、週単位報告対象疾患は2022年第1週(2022年1月3日～2022年1月9日)から52週(2022年12月26日～2023年1月1日)まで、月単位報告対象疾患は、2022年1月から12月までの報告を対象とした。定点当たり報告数は、定点における患者数を各週もしくは各月における定点数で除した値とした。定点当たり報告患者総数は、累積報告患者数を平均定点数で除した値とした。なお、平均定点数は、インフルエンザ定点数・小児科定点数・眼科定点数は小数点以下を切り捨て、性感染症定点数・基幹定点数は小数点第2位以下を切り捨てた。年齢別の集計は、全数把握対象疾患では10歳毎の階級に分け、定点把握対象疾患では感染症発生動向調査事業の報告書式の年齢階級を適用した。

## 結果

### 1 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表 1-1 に、四類感染症を表 1-2 に、五類全数把握対象疾患を表 1-3 に、新型インフルエンザ等感染症を表 1-4 にそれぞれ示した。

#### (1) 一類感染症

一類感染症は疑似症を含め届出はなかった。

#### (2) 二類感染症

二類感染症は、結核 758 例の届出があった。

結核は男 447 例、女 311 例の計 758 例の届出があり、前年の 834 例と比べ減少した。類型別では患者 517 例、無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）240 例、疑似

\* 現 加須保健所

症患者 1 例の届出があり、患者は前年の 592 例より減少した。

男では患者が 319 例、無症状病原体保有者が 128 例で、60 歳以上が 65.8%を占め、80 歳代、70 歳代の順に多かった。女では患者が 198 例、無症状病原体保有者が 112 例、疑似症患者 1 例で、60 歳以上が 61.4%を占め、80 歳代、70 歳代の順に多かった。また、小児（0-14 歳）では 2 名の報告があった。

(3) 三類感染症

三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症 145 例、腸チフス 1 例の計 146 例の届出があった。

表 1-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2022年	2021年	2020年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	758	834	891
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
三類	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	6
	腸管出血性大腸菌感染症	145	136	95
	腸チフス	1	2	1
パラチフス	0	0	0	

1) 腸管出血性大腸菌感染症

男 58 例、女 87 例の計 145 例の届出があり、前年の 136 例よりやや増加した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布した。年齢階級別では、20 歳代が 31 例と最も多く、次いで 30 歳代が 28 例であった。類型別では、患者 99 例、無症状病原体保有者 46 例で、患者が全体の 68.3%を占め、前年の 60.3%と比べ増加した。0 血清型は、0157 が 90 例と最も多く、次いで 026 が 21 例であった。年齢階級別では、0157 の検出が多かったのは 20 歳代及び 30 歳代、026 の検出が多かったのは 30 歳代及び 40 歳代であった。届出は 7 月が最も多く、例年の流行期である 6 月～9 月の届出数は 92 例で、前年の 58 例から大きく増加した。

患者における 0 血清型別の割合は、0157 が 71.7% (71 例)、026 が 15.2% (15 例) で、前年に比べ 0157 は増加し、026 は減少した。その他の血清型は 0103、0111 及び 0121 が各 2 例、071、076、0145 及び 0165 が各 1 例、その他に OUT が 1 例、不明が 2 例であった。なお、無症状病原体保有者では、0157 が 19 例、026 が 6 例、08、084、091、0103、0112ab 及び 0156 が各 2 例、065、066、078、088、0115、0128、0146 及び 0174 が各 1 例、その他に OUT が 1 例であった。

溶血性尿毒症症候群 (HUS) 患者は、70 歳代の女 2 例

の発症が確認された。検出された大腸菌の 0 血清型は共に 0157 であった。

2) 腸チフス

10 月に女 20 歳代 1 例の届出があり、前年の 2 例を下回った。類型は患者で、推定感染地域はミャンマーであった。

(4) 四類感染症

四類感染症は、E 型肝炎 35 例、A 型肝炎 3 例、オウム病 1 例、デング熱 2 例、マラリア 2 例、レジオネラ症 97 例の計 140 例であった。

1) E 型肝炎

男 26 例、女 9 例の計 35 例の届出があり、前年の 36 例を下回った。症例の年齢は 30 歳代から 90 歳代に分布し、50 歳代が 9 例で最も多く、次いで 60 歳代が 7 例であった。類型は患者が 32 例、無症状病原体保有者が 3 例で、届出は年間を通して確認された。推定感染経路は経口感染 21 例、不明 14 例で、推定感染地域は国

表 1-2 四類感染症の届出数

疾患名	埼玉県		
	2022年	2021年	2020年
E型肝炎	35	36	28
ウエストナイル熱	0	0	0
A型肝炎	3	2	4
エキノコックス症	0	0	0
黄熱	0	0	0
オウム病	1	0	1
オムスク出血熱	0	0	0
回帰熱	0	0	0
キャサナル森林病	0	0	0
Q熱	0	0	0
狂犬病	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0
サル痘	0	0	0
ジカウイルス感染症	0	0	1
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0
ダニ媒介脳炎	0	0	0
炭疽	0	0	0
チクングニア熱	0	0	0
つつが虫病	0	3	2
デング熱	2	0	2
東部ウマ脳炎	0	0	0
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
ニパウイルス感染症	0	0	0
日本紅斑熱	0	0	0
日本脳炎	0	0	0
ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
Bウイルス病	0	0	0
鼻疽	0	0	0
ブルセラ症	0	0	0
ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
発しんチフス	0	0	0
ポツリヌス症	0	0	0
マラリア	2	2	0
野兎病	0	0	0
ライム病	0	0	0
リッサウイルス感染症	0	0	0
リフトバレー熱	0	0	0
類鼻疽	0	0	0
レジオネラ症	97	99	107
レプトスピラ症	0	1	0
ロッキー山紅斑熱	0	0	0

内31例、不明4例であった。

2) A型肝炎

男3例の届出があり、前年の2例を上回った。類型は全て患者で、症例の年齢は30歳代、70歳代及び90歳以上が各1例であった。推定感染経路は、性的接触が1例、経口感染が1例、不明1例で、推定感染地域は国内が2例、不明が1例であった。また、ワクチン接種歴は、全て不明であった。

3) オウム病

過去10年で3例(2015年、2018年、2020年)の届出があったオウム病は、2022年は8月に男70歳代1例の届出があった。類型は患者で、推定感染経路は鳥類との接触で、推定感染地域は国内(県内)であった。

4) デング熱

昨年発生のなかったデング熱は、8月に男30歳代1例、10月に女30歳代1例の計2例の届出があった。病型は共にデング熱であった。推定感染地域は前者がベトナム、後者がネパールであった。

5) マラリア

1月及び8月に女30歳代の計2例の届出があり、前年の2例と同数であった。病型は前者が熱帯熱で、後者が三日熱であった。推定感染地域は前者がナイジェリア、後者がインドであった。

6) レジオネラ症

男79例、女18例の計97例の届出があり、前年の99例を下回った。症例の年齢は20歳代から90歳代に分布し、60歳代が24例、70歳代が22例、50歳代が21例が多かった。類型は患者96例、無症状病原体保有者1例で、患者の病型別では肺炎型94例、ポンティアック熱型2例であった。

年間を通して届出はあったが、5月と9月にそれぞれ20例、16例と届出が多かった。推定感染地域は、国内84例、国外1例、不明12例で、国内感染例のうち県内は54例であった。

(5) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢24例、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症72例、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)1例、急性脳炎35例、クロイツフェルト・ヤコブ病7例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症41例、後天性免疫不全症候群27例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症47例、水痘(入院例)10例、梅毒468例、播種性クリプトコックス症10例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳13例、風しん2例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例の計773例であった。

1) アメーバ赤痢

男24例の届出があり、前年の19例を上回った。症例の年齢は50歳代及び60歳代が各6例、40歳代及び70歳代が各5例、30歳代が2例であった。病型は全て腸管ア

表 1-3 五類感染症の届出数(全数把握)

疾患名	埼玉県		
	2022年	2021年	2020年
アメーバ赤痢	24	19	31
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	6	10	6
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	72	95	81
急性弛緩性麻痺	1	1	2
急性脳炎	35	20	23
クリプトスポリジウム症	0	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	7	4	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	41	30	30
後天性免疫不全症候群	27	28	29
ジアルジア症	0	4	0
侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	6	12
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	0	2
侵襲性肺炎球菌感染症	47	57	63
水痘(入院例)	10	15	13
先天性風しん症候群	0	0	0
梅毒	468	287	168
播種性クリプトコックス症	10	10	10
破傷風	3	3	5
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	0	1
百日咳	13	43	106
風しん	2	1	3
麻しん	0	1	0
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	0	0

メーバ症であった。推定感染経路は経口感染が5例、性的接触が7例、不明12例で、性的接触の内訳は異性間性的接触が4例、同性間性的接触が3例であった。推定感染地域は、国内15例、国外1例、不明8例であった。

2) ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

B型肝炎4例、その他のウイルス性肝炎2例の計6例の届出があり、前年の10例を下回った。

B型肝炎は20歳代から40歳代の男4例の届出があった。ウイルスの遺伝子型はC型が2例、不明が2例であった。推定感染経路は全て性的接触で、性的接触の内訳は異性間性的接触が1例、同性間性的接触が2例、異性同性不明が1例であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。

C型肝炎の届出はなかった。

その他のウイルス性肝炎は、サイトメガロウイルス(CMV)による肝炎が8月に女30歳代1例、エプスタイン・バーン・ウイルス(EBV)による肝炎が11月に女20歳代1例の計2例の届出があった。推定感染経路はいずれも不明で、推定感染地域は、前者は不明、後者は国内であった。

3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

男41例、女31例の計72例の届出があり、前年の95例より減少した。症例の年齢は0歳から90歳代まで幅広く分布したが、60歳以上が57例で全体の79.2%を占めた。

分離された菌は多い順に*Klebsiella aerogenes*が27株、*Enterobacter cloacae*が22株、*Serratia marcescens*が7株、*K. pneumoniae*が6株、*Citrobacter freundii*が4株、*Escherichia coli*が2株、*E. asburiae*,

*Proteus mirabilis*が各1株で、*E. cloacae*及び*K. aerogenes*の同時検出が1件、この他に*Enterobacter* sp. が1株報告された。

#### 4) 急性弛緩性麻痺

10月に女10-14歳1例の届出があり、前年と同数であった。病原体は不明で、ポリオワクチン接種歴は有りであった。推定感染経路は不明、推定感染地域は国内（県内）であった。

#### 5) 急性脳炎

男17例、女18例の計35例の届出があり、前年の20例より増加した。症例の年齢は0歳から60歳代に分布し、階級別では1-4歳の20例が最も多かった。

病原体別では、新型コロナウイルスによるものが8例で、0歳が1例、1-4歳が5例、5-9歳が2例であった。その他には、RSウイルスが2例、ヘルペスウイルス、ムンプスウイルス及びリステリア属菌が各1例で、病原体が特定されなかったのは22例であった。推定感染地域は、全て国内で、県内は30例であった。

#### 6) クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

男6例、女1例の計7例の届出があり、前年の4例より増加した。症例の年齢は60歳代3例、70歳代1例、80歳代2例、90歳代1例で、病型は全て古典型CJDで、診断の確実度は、ほぼ確実が6例、疑いが1例であった。

#### 7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

男22例、女19例の計41例の届出があり、前年の30例より増加した。症例の年齢は40歳代から100歳代に分布し、60歳以上が35例で全体の85.4%を占めた。届出は9月を除く各月にあり、8月及び11月の7例が最も多かった。血清群はA群が13例、B群が8例、C群が1例、G群が17例、不明が2例であった。推定される感染経路は創傷感染が11例、飛沫・飛沫核感染及び接触感染が各1例、その他が5例、不明が23例で、推定感染地域は国内が37例（県内33例）、不明が4例であった。

#### 8) 後天性免疫不全症候群

男24例、女3例の計27例の届出があり、前年の28例を下回った。病型別では、AIDSは17例で、前年の12例より増加し、無症状病原体保有者は8例で、前年の15例より減少した。また、その他（指標疾患を認めない患者）が2例であった。

男の症例は20歳代から60歳代に分布し、30歳代及び40歳代が各7例、20歳代が6例で多かった。病型はAIDSが14例で、その指標疾患はニューモシスティス肺炎が8例、カンジダ症（食道、気管、気管支、肺）が3例、クリプトコッカス症（肺以外）が2例、トキソプラズマ脳症（生後1か月以後）、サイトメガロウイルス感染症（生後1か月以後で、肺、脾、リンパ節以外）及びHIV脳症（認知症又は亜急性性脳炎）が各1例（重複例有り）であった。また、その他（指標疾患を認めない患者）が2例、無症状病原体保有者が8例であった。推定される感染経路では性的接触が17例、不明が7例で、

性的接触の内訳は同性間性的接触が12例、異性間性的接触が3例、異性・同性不明性的接触が2例であった。女の症例は、50歳代2例、60歳代1例であった。病型はいずれもAIDSで、その指標疾患はカンジダ症（食道、気管、気管支、肺）、ニューモシスティス肺炎及び活動性結核（肺結核又は肺外結核）が各1例であった。推定感染経路は異性間性的接触が2例、不明が1例であった。

また、病型別の年齢分布では、AIDSは20歳代から60歳代に分布し、20歳代が5例で最も多かった。無症状病原体保有者は20歳代から50歳代に分布し、30歳代及び40歳代が各3例で多く、75.0%を占めた。

#### 9) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

男3例、女1例の計4例の届出があり、前年の6例より減少した。症例の年齢は80歳代が2例、0歳及び90歳以上が各1例であった。ヒブワクチン接種歴は、0歳の症例は有りで、その他は不明であった。推定感染経路は誤嚥によるものが1例で、不明が3例であった。推定感染地域は国内3例（県内2例）、不明が1例であった。

#### 10) 侵襲性髄膜炎菌感染症

前年発生のなかった侵襲性髄膜炎菌感染症は、12月に男40歳代1例の届出があった。血清型はY群であった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内であった。ワクチン接種歴は不明であった。

#### 11) 侵襲性肺炎球菌感染症

男30例、女17例の計47例の届出があり、前年の57例より減少した。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し、60歳以上が34例で全体の72.3%を占めた。20歳未満では1-4歳が5例、0歳が4例の報告があった。ワクチン接種歴は、20歳未満では、いずれも有りで、20歳以上では、有りが5例、無しが9例、不明が24例であった。推定感染地域は国内が43例（県内41例）、不明が4例であった。

#### 12) 水痘(入院例)

男6例、女4例の計10例の届出があり、前年の15例より減少した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布した。病型別では検査診断例が8例、臨床診断例が2例であった。ワクチン接種歴は有りが4例、無しが2例、不明が4例であった。感染経路は、家族等からの感染が3例、水痘ワクチン接種に伴う副反応疑いが1例、不明が6例で、推定感染地域はいずれも国内（県内）であった。

#### 13) 梅毒

男349例、女119例の計468例の届出があり、前年の287例より大きく増加し、届出数は感染症法に基づく調査が開始された1999年以来、最大となった。性比（男/女）は2.93で、前年の3.22より低くなった。症例の年齢は、男では10歳代から80歳代に分布し、40歳代の100例、30歳代の97例が多く、56.4%を占めた。女では0歳代から100歳代に分布し、20歳代が63例で最も多く52.9%を占めた。前年に比べ、男では30歳代～

60歳代の各年代が増加し、女では20歳代が大きく増加した。

病型は、男では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が209例、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が79例、晩期顕症梅毒が4例、無症状病原体保有者が57例で、女では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が26例、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が56例、晩期顕症梅毒が2例、先天梅毒が2例、無症状病原体保有者が33例であった。なお、先天梅毒の2例は、前年と同数であった。推定感染経路は、男では性行為感染が306例、不明が43例、女では性行為感染が99例、母子感染が2例、不明が18例であった。性行為感染の内訳では、異性間性的接触が男女共に最も多く、男が242例、女が88例であった。性風俗産業の直近6か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男の45.0%、従事歴が女の31.1%に認められ、女の性風俗産業の従事歴の割合は前年の11.8%から大きく増加した。HIV感染症との合併は男13例、妊娠は女9例に認められた。また、推定感染地域は国内が367例、不明が101例であった。

14) 播種性クリプトコックス症

男6例、女4例の計10例の届出があり、前年の10例と同数であった。症例の年齢は30歳代から80歳代に分布した。感染原因は、ステロイド内服等による免疫不全が6例、頭部外傷を起因とする髄液の耳漏によるものが1例、不明が3例であった。推定感染地域はいずれも国内で、県内は9例であった。

15) 破傷風

男2例、女1例の計3例の届出があり、前年の3例と同数であった。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。推定感染経路は創傷感染が2例、不明が1例、推定感染地域はいずれも国内（県内）であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は、有り、無し及び不明が各1例であった。

16) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

前年発生のなかったバンコマイシン耐性腸球菌感染症は、10月に女70歳代1例の届出があった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内（県内）であった。

17) 百日咳

男7例、女6例の計13例の届出があり、前年の43例より減少した。症例の年齢は0歳から50歳代に分布し、5-9歳が3例で最も多かった。ワクチン接種歴は有りが6例、不明が7例であった。接種歴有り6例のうち5例が4回接種で、残り1例は0歳の症例で、2回目までは有り、3回目以降は不明であった。推定感染地域は国内（県内）が10例、不明が3例であった。

18) 風しん

5月に女30歳代1例、6月に男50歳代1例の計2例の届出があり、前年の1例を上回った。共に病型は検査診断例、診断方法は血清IgM抗体の検出であった。ワクチン接種歴は、前者は1回で、後者はなかった。推定感染経路は共に不明で、推定感染地域は前者が国内

（都道府県不明）、後者は国内（県内）であった。

19) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2019年以来、届出がなかった薬剤耐性アシネトバクター感染症は、6月に男90歳代1例の届出があった。90日以内の海外渡航歴はなかった。

(4) 新型インフルエンザ等感染症

1) 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症は2022年9月26日から発生届出の対象が見直され、感染動向は日ごとの患者の総数及び日ごとの患者の年代別の総数（以下、日次報告数という）として把握されることとなった。新型コロナウイルス感染症の報告数は、1,514,702例（2022年1月1日～9月25日：1,064,537例、9月26日～12月31日：450,165例）で、前年に届出のあった101,396例と比較し大幅に増加した。

全数届出見直し前の症例の年齢は0歳から100歳代に分布していた。年齢階級別では、40歳代が最も多く、60歳未満が全体の87.5%を占めた。性別では、男530,066例、女534,392例で、およそ同等であった。その他に性別不明79例の報告があった。発症の有無別では、患者999,078例、無症状病原体保有者17,688例、不明（発症日不明を含む。）47,771例で、患者が全体の93.9%を占めた。

全数届出見直し後は、10歳未満から90歳代以上の全ての年齢階級で報告があり、全数届出見直し前と同様に、40歳代が最も多く、60歳未満が全体の82.2%を占めた。

2020年から2021年までに計5つの波が観察されている。2022年の患者の発生状況は、1月から6月にかけて第6波が観察された。第6波に発症者数が最大となったのは2月7日（6,347例）であった。その後、発症者数は減少したが、7月に患者数が急激に増加し、9月にかけて第7波が観察された。第7波における患者数の最大値は8月1日の12,841例で、過去最大であった。その後、患者数は再度減少したものの、11月から再び増加し、第8波が観察された。第8波に患者数が最大となったのは12月19日（8,884例）であった。

表 1-4 新型インフルエンザ等感染症の届出数

疾患名	埼玉県		
	2022年*	2021年	2020年
新型コロナウイルス感染症	1,514,702	101,396	14,680

\*2023年2月16日集計

(5) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行う感染症は、鳥インフルエンザ（H5N1又はH7N9）1件の届出があった。

2 定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表2-1及び2-2に、年齢階級別報告数を表3に示した。また、月単位報告の月別報告数及び定点当

たり報告数を表4に、性年齢階級別報告数を表5に示した。

(1) 内科・小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

第1週～52週の累積報告患者数は1,068例であった。定点当たり報告患者総数4.27は前年を上回った。2021年-2022年シーズンは、前シーズン同様に定点当たり報告数が1.00を上回ることにはなかった。2022年-2023年シーズンは、2022年第51週(1.22)に定点当たり報告数1.00を上回り、2019年-2020年シーズン以来の流行入りとなった。年齢階級別では、20歳未満が全体の62.3%、10歳未満は全体の35.9%を占めた。

(2) 小児科定点把握対象疾患の動向

1) RSウイルス感染症

第1週～52週の累積報告患者数は4,576例であった。定点当たり報告患者総数28.96は前年を下回った。定点当たり報告数は5月から増加し始め、第29週(7/18-24)に1.76、第37週(9/12-18)に1.83のピークを形成し、11月まで多い状態が続いた。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、3歳未満が全体の75.5%を占めた。また、3歳及び4歳の割合は、前年に引き続き例年よりも多い傾向であった。

表 2-1 定点把握対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	イン(入院患者)フルエンザ
22*1	01/03	3	10	31	28	941	20	20	1	33	3	6	-	11	1	-	-	-	-	-
22*2	01/10	1	5	40	39	1,334	14	30	-	62	16	5	-	10	-	-	-	-	-	-
22*3	01/17	1	9	24	36	1,624	15	40	4	54	7	6	1	9	-	1	-	-	-	-
22*4	01/24	-	8	14	39	1,366	15	14	1	39	4	4	-	5	-	-	-	-	-	-
22*5	01/31	-	7	23	32	1,086	8	10	5	36	4	3	2	7	-	-	-	-	-	-
22*6	02/07	-	1	5	14	794	12	4	6	44	-	3	1	2	-	-	-	-	-	-
22*7	02/14	4	15	9	14	748	16	7	3	45	3	5	-	5	-	-	-	-	-	-
22*8	02/21	-	3	6	22	702	12	5	2	34	-	3	1	6	-	-	-	-	-	-
22*9	02/28	-	4	7	19	674	12	2	3	49	-	4	-	6	-	1	-	-	-	-
22*10	03/07	1	1	8	11	722	9	3	4	46	-	9	-	6	-	1	-	-	-	-
22*11	03/14	1	2	7	18	609	17	4	4	57	2	11	-	3	-	2	-	-	-	-
22*12	03/21	4	-	7	13	504	10	1	1	28	-	5	1	4	-	-	-	-	-	-
22*13	03/28	3	1	4	14	463	13	2	3	44	-	7	2	5	-	1	-	-	-	-
22*14	04/04	-	3	3	18	540	9	7	3	37	1	3	-	2	-	1	-	-	-	-
22*15	04/11	-	1	5	9	597	9	10	3	38	-	6	-	4	-	-	-	-	-	-
22*16	04/18	1	2	5	18	625	8	15	3	62	-	6	-	8	-	1	1	-	-	-
22*17	04/25	-	7	12	7	559	14	6	3	76	4	4	1	6	-	1	-	-	-	-
22*18	05/02	1	-	10	17	445	14	8	2	40	1	6	-	5	-	2	-	-	-	-
22*19	05/09	-	7	12	17	777	12	9	4	60	1	6	-	9	-	-	-	-	-	-
22*20	05/16	-	12	18	27	979	15	33	1	76	6	7	-	4	-	1	-	-	-	-
22*21	05/23	1	16	28	21	1,010	20	35	2	71	1	5	1	6	-	-	-	-	-	-
22*22	05/30	-	20	55	30	1,054	23	35	2	53	13	6	-	14	-	-	1	-	-	-
22*23	06/06	-	24	45	15	1,067	16	28	2	72	14	7	-	16	-	1	-	-	-	-
22*24	06/13	1	56	50	26	1,163	22	53	2	77	27	3	7	7	-	-	-	-	-	-
22*25	06/20	-	98	60	21	1,111	22	109	6	62	21	7	1	12	-	1	-	-	-	1
22*26	06/27	-	93	61	36	1,039	21	209	5	60	44	8	2	11	-	-	-	-	-	-
22*27	07/04	-	162	85	43	998	14	326	5	67	69	9	-	13	1	1	1	-	-	-
22*28	07/11	1	235	61	74	921	18	571	2	52	141	12	2	11	-	1	1	-	-	-
22*29	07/18	1	281	19	64	714	7	749	2	42	170	3	3	12	1	-	1	-	-	-
22*30	07/25	1	252	23	73	577	13	954	9	49	213	8	1	12	-	-	-	-	-	-
22*31	08/01	4	273	16	56	493	17	1,115	1	49	214	7	1	13	-	-	-	-	-	-
22*32	08/08	2	182	5	67	269	5	746	5	29	158	4	-	5	1	-	-	-	-	-
22*33	08/15	2	126	9	49	328	6	610	1	25	87	5	-	5	-	-	-	-	-	-
22*34	08/22	6	205	14	55	394	7	789	2	34	134	7	-	6	-	1	1	-	-	-
22*35	08/29	3	218	8	59	442	8	850	2	35	168	12	-	7	-	-	-	-	-	1
22*36	09/05	5	280	7	43	449	11	932	1	53	168	8	1	6	-	-	-	-	-	-
22*37	09/12	11	292	8	46	457	9	801	5	54	138	7	-	8	-	-	-	-	-	-
22*38	09/19	9	218	4	52	333	6	527	-	33	77	11	2	6	-	-	-	-	-	-
22*39	09/26	3	215	11	57	466	11	448	1	47	69	9	1	11	-	-	-	-	-	-
22*40	10/03	5	141	5	50	397	9	353	-	34	42	8	-	8	1	3	-	-	-	-
22*41	10/10	1	152	12	51	458	12	272	1	37	31	8	-	5	-	-	-	-	-	-
22*42	10/17	2	139	9	31	548	17	198	1	29	33	8	-	5	-	-	-	-	-	-
22*43	10/24	2	147	7	43	570	18	158	2	38	19	6	-	12	1	1	-	-	-	-
22*44	10/31	2	135	9	49	678	24	88	2	42	5	2	1	7	-	-	-	-	-	-
22*45	11/07	4	137	19	57	794	36	66	-	27	3	4	-	5	-	-	-	-	-	-
22*46	11/14	6	101	11	62	946	25	56	1	41	7	12	-	1	-	-	1	-	-	-
22*47	11/21	7	85	14	57	1,069	28	37	1	47	6	8	-	5	-	-	1	-	-	-
22*48	11/28	16	62	15	59	1,211	20	26	-	40	4	6	3	12	1	-	-	-	-	-
22*49	12/05	46	60	16	54	1,466	29	27	4	33	9	10	4	4	-	1	-	-	-	-
22*50	12/12	122	23	12	67	1,617	16	20	-	37	4	8	4	6	-	-	-	-	-	1
22*51	12/19	308	31	28	44	1,670	24	7	2	37	2	8	7	4	-	-	-	-	-	-
22*52	12/26	477	19	13	40	877	17	8	1	29	2	9	3	1	1	-	-	-	-	3
2022年計		1,068	4,576	989	1,963	41,675	785	11,433	126	2,395	2,145	344	53	373	8	22	8	-	2	4
2021年計		35	8,833	1,623	3,388	32,754	1,061	838	141	3,442	992	544	29	391	11	27	10	-	3	1
2022年/2021年比		30.5	0.5	0.6	0.6	1.3	0.7	13.6	0.9	0.7	2.2	0.6	1.8	1.0	0.7	0.8	0.8	-	0.7	4.0

(-:0)

2) 咽頭結膜熱

第1週～52週の累積報告患者数は969例であった。定点当たり報告患者総数6.13は前年と比べ減少した。夏季流行は例年に比べ小規模で、冬季はわずかに定点当たり報告数が多い時期が1月に観察された。定点当たり報告数の最大値0.40は、第27週(7/4～10)及び第28週(7/11～17)に観察された。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、1歳～3歳が全体の65.6%を占めた。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第1週～52週の累積報告患者数は1,963例であった。定点当たり報告患者総数12.42は前年と比べ減少した。定点当たり報告数は、年間を通して0.50を上回ることがなく、2020年3月以降例年を下回る水準で推移している。2022年の定点当たり報告数の最大値は第28週(7/11～17)の0.49であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、3歳が最も多く、2歳～6歳が全体の58.7%を占めた。

表2-2 定点把握対象疾患の推移・定点当たり報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)感染性胃腸炎	イン(入院患者)フルエンザ
22*1	01/03	0.01	0.06	0.20	0.18	6.03	0.13	0.13	0.01	0.21	0.02	0.04	-	0.29	0.09	-	-	-	-	-
22*2	01/10	-	0.03	0.25	0.24	8.34	0.09	0.19	-	0.39	0.10	0.03	-	0.26	-	-	-	-	-	-
22*3	01/17	-	0.06	0.15	0.23	10.15	0.09	0.25	0.03	0.34	0.04	0.04	0.03	0.24	-	0.09	-	-	-	-
22*4	01/24	-	0.05	0.09	0.24	8.48	0.09	0.09	0.01	0.24	0.02	0.02	-	0.12	-	-	-	-	-	-
22*5	01/31	-	0.04	0.15	0.20	6.92	0.05	0.06	0.03	0.23	0.03	0.02	0.05	0.17	-	-	-	-	-	-
22*6	02/07	-	0.01	0.03	0.09	5.03	0.08	0.03	0.04	0.28	-	0.02	0.03	0.05	-	-	-	-	-	-
22*7	02/14	0.02	0.10	0.06	0.09	4.76	0.10	0.04	0.02	0.29	0.02	0.03	-	0.13	-	-	-	-	-	-
22*8	02/21	-	0.02	0.04	0.14	4.39	0.08	0.03	0.01	0.21	-	0.02	0.02	0.15	-	-	-	-	-	-
22*9	02/28	-	0.03	0.04	0.12	4.24	0.08	0.01	0.02	0.31	-	0.03	-	0.15	-	0.09	-	-	-	-
22*10	03/07	-	0.01	0.05	0.07	4.54	0.06	0.02	0.03	0.29	-	0.06	-	0.15	-	0.09	-	-	-	-
22*11	03/14	-	0.01	0.04	0.12	3.90	0.11	0.03	0.03	0.37	0.01	0.07	-	0.08	-	0.18	-	-	-	-
22*12	03/21	0.02	-	0.04	0.08	3.15	0.06	0.01	0.01	0.18	-	0.03	0.03	0.10	-	-	-	-	-	-
22*13	03/28	0.01	0.01	0.03	0.09	3.01	0.08	0.01	0.02	0.29	-	0.05	0.05	0.13	-	0.09	-	-	-	-
22*14	04/04	-	0.02	0.02	0.11	3.38	0.06	0.04	0.02	0.23	0.01	0.02	-	0.05	-	0.09	-	-	-	-
22*15	04/11	-	0.01	0.03	0.06	3.78	0.06	0.06	0.02	0.24	-	0.04	-	0.10	-	-	-	-	-	-
22*16	04/18	-	0.01	0.03	0.11	3.96	0.05	0.09	0.02	0.39	-	0.04	-	0.20	-	0.09	0.09	-	-	-
22*17	04/25	-	0.05	0.08	0.05	3.63	0.09	0.04	0.02	0.49	0.03	0.03	0.03	0.15	-	0.09	-	-	-	-
22*18	05/02	-	-	0.06	0.11	2.85	0.09	0.05	0.01	0.26	0.01	0.04	-	0.12	-	0.18	-	-	-	-
22*19	05/09	-	0.04	0.08	0.11	4.89	0.08	0.06	0.03	0.38	0.01	0.04	-	0.22	-	-	-	-	-	-
22*20	05/16	-	0.08	0.11	0.17	6.16	0.09	0.21	0.01	0.48	0.04	0.04	-	0.10	-	0.09	-	-	-	-
22*21	05/23	-	0.10	0.18	0.13	6.31	0.13	0.22	0.01	0.44	0.01	0.03	0.03	0.15	-	-	-	-	-	-
22*22	05/30	-	0.13	0.35	0.19	6.63	0.14	0.22	0.01	0.33	0.08	0.04	-	0.36	-	-	0.09	-	-	-
22*23	06/06	-	0.15	0.28	0.09	6.63	0.10	0.17	0.01	0.45	0.09	0.04	-	0.40	-	0.09	-	-	-	-
22*24	06/13	-	0.35	0.31	0.16	7.27	0.14	0.33	0.01	0.48	0.17	0.02	0.18	0.18	-	-	-	-	-	-
22*25	06/20	-	0.61	0.37	0.13	6.90	0.14	0.68	0.04	0.39	0.13	0.04	0.03	0.31	-	0.09	-	-	0.09	-
22*26	06/27	-	0.58	0.38	0.22	6.45	0.13	1.30	0.03	0.37	0.27	0.05	0.05	0.28	-	-	-	-	-	-
22*27	07/04	-	1.01	0.40	0.27	6.20	0.09	2.02	0.03	0.42	0.43	0.06	-	0.33	0.09	0.09	0.09	-	-	-
22*28	07/11	-	1.55	0.40	0.49	6.06	0.12	3.76	0.01	0.34	0.93	0.08	0.05	0.29	-	0.09	0.09	-	-	-
22*29	07/18	-	1.76	0.12	0.40	4.46	0.04	4.68	0.01	0.26	1.06	0.02	0.07	0.29	0.09	-	0.09	-	-	-
22*30	07/25	-	1.59	0.15	0.46	3.65	0.08	6.04	0.06	0.31	1.35	0.05	0.03	0.30	-	-	-	-	-	-
22*31	08/01	0.02	1.74	0.10	0.36	3.14	0.11	7.10	0.01	0.31	1.36	0.04	0.03	0.33	-	-	-	-	-	-
22*32	08/08	0.01	1.27	0.03	0.47	1.88	0.03	5.22	0.03	0.20	1.10	0.03	-	0.15	0.09	-	-	-	-	-
22*33	08/15	0.01	0.81	0.06	0.32	2.12	0.04	3.94	0.01	0.16	0.56	0.03	-	0.13	-	-	-	-	-	-
22*34	08/22	0.02	1.31	0.09	0.35	2.53	0.04	5.06	0.01	0.22	0.86	0.04	-	0.15	-	0.09	0.09	-	-	-
22*35	08/29	0.01	1.36	0.05	0.37	2.76	0.05	5.31	0.01	0.22	1.05	0.08	-	0.18	-	-	-	-	0.09	-
22*36	09/05	0.02	1.74	0.04	0.27	2.79	0.07	5.79	0.01	0.33	1.04	0.05	0.02	0.15	-	-	-	-	-	-
22*37	09/12	0.04	1.83	0.05	0.29	2.96	0.06	5.01	0.03	0.34	0.86	0.04	-	0.21	-	-	-	-	-	-
22*38	09/19	0.04	1.35	0.02	0.32	2.07	0.04	3.27	-	0.20	0.48	0.07	0.05	0.15	-	-	-	-	-	-
22*39	09/26	0.01	1.35	0.07	0.36	2.93	0.07	2.82	0.01	0.30	0.43	0.06	0.03	0.28	-	-	-	-	-	-
22*40	10/03	0.02	0.89	0.03	0.31	2.50	0.06	2.22	-	0.21	0.26	0.05	-	0.22	0.09	0.27	-	-	-	-
22*41	10/10	-	0.96	0.08	0.32	2.88	0.08	1.71	0.01	0.23	0.19	0.05	-	0.13	-	-	-	-	-	-
22*42	10/17	0.01	0.87	0.06	0.19	3.43	0.11	1.24	0.01	0.18	0.21	0.05	-	0.13	-	-	-	-	-	-
22*43	10/24	0.01	0.92	0.04	0.27	3.58	0.11	0.99	0.01	0.24	0.12	0.04	-	0.29	0.09	0.09	-	-	-	-
22*44	10/31	0.01	0.84	0.06	0.31	4.24	0.15	0.55	0.01	0.26	0.03	0.01	0.02	0.17	-	-	-	-	-	-
22*45	11/07	0.02	0.86	0.12	0.36	4.99	0.23	0.42	-	0.17	0.02	0.03	-	0.12	-	-	-	-	-	-
22*46	11/14	0.02	0.64	0.07	0.39	6.03	0.16	0.36	0.01	0.26	0.04	0.08	-	0.02	-	-	0.09	-	-	-
22*47	11/21	0.03	0.53	0.09	0.36	6.68	0.18	0.23	0.01	0.29	0.04	0.05	-	0.12	-	-	0.09	-	-	-
22*48	11/28	0.06	0.39	0.09	0.37	7.62	0.13	0.16	-	0.25	0.03	0.04	0.07	0.29	0.09	-	-	-	-	-
22*49	12/05	0.18	0.38	0.10	0.34	9.22	0.18	0.17	0.03	0.21	0.06	0.06	0.10	0.10	-	0.09	-	-	-	-
22*50	12/12	0.48	0.14	0.08	0.42	10.17	0.10	0.13	-	0.23	0.03	0.05	0.10	0.15	-	-	-	-	-	0.08
22*51	12/19	1.22	0.19	0.18	0.28	10.44	0.15	0.04	0.01	0.23	0.01	0.05	0.17	0.10	-	-	-	-	-	-
22*52	12/26	2.07	0.13	0.09	0.28	6.09	0.12	0.06	0.01	0.20	0.01	0.06	0.09	0.03	0.09	-	-	-	-	0.27
2022年計		4.27	28.96	6.13	12.42	263.77	4.97	72.36	0.80	15.16	13.58	2.18	1.36	9.56	0.73	2.00	0.73	-	0.18	0.36
2021年計		0.14	55.55	10.21	21.31	206.00	6.67	5.27	0.89	21.85	6.24	3.42	0.74	10.03	1.00	2.45	0.91	-	0.27	0.09
2022年/2021年比		30.6	0.5	0.6	0.6	1.3	0.7	13.7	0.9	0.7	2.2	0.6	1.8	1.0	0.7	0.8	0.8	-	0.7	4.0

※表中の定点当たり報告数は、小数第3位で四捨五入

(-:0)

表3 年齢階級別報告数(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点 週単位報告)

年齢階級	インフルエンザ	年齢階級	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	年齢階級	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	年齢階級	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎	(ロタウイルス)	(入院患者)インフルエンザ
-6カ月	2	-6カ月	445	5	2	321	4	98	-	23	11	-	-6カ月	1	1	0歳	2	1	-	-	-	1	-
-12カ月	9	-12カ月	623	83	20	2,243	38	938	13	556	149	2	-12カ月	1	1	1-4歳	-	1	4	-	-	1	-
1歳	27	1歳	1,343	271	129	6,390	65	3,904	40	1,338	627	6	1歳	8	5	5-9歳	-	-	1	-	-	-	1
2歳	21	2歳	1,044	209	217	6,089	48	3,230	21	352	598	14	2歳	11	8	10-14歳	-	2	-	-	-	-	-
3歳	44	3歳	632	156	277	5,478	50	1,734	10	91	373	22	3歳	4	11	15-19歳	-	3	-	-	-	-	-
4歳	49	4歳	306	89	230	4,374	62	708	13	35	192	33	4歳	6	9	20-24歳	-	-	-	-	-	-	-
5歳	59	5歳	114	64	233	3,738	64	362	8	-	88	62	5歳	2	3	25-29歳	-	2	-	-	-	-	-
6歳	47	6歳	36	27	195	2,573	69	169	5	41	48	48	6歳	2	6	30-34歳	-	2	-	-	-	-	-
7歳	46	7歳	15	16	127	1,858	79	85	9	22	46	46	7歳	-	4	35-39歳	-	3	-	-	-	-	-
8歳	38	8歳	7	17	108	1,454	64	35	2	14	34	34	8歳	-	6	40-44歳	-	1	-	-	-	-	-
9歳	41	9歳	4	6	93	1,096	67	23	1	6	32	32	9歳	-	9	45-49歳	-	2	-	-	-	-	-
10-14歳	170	10-14歳	3	17	218	2,864	150	52	4	16	36	36	10-14歳	1	14	50-54歳	-	1	2	-	-	-	-
15-19歳	112	15-19歳	1	1	23	524	14	7	-	2	3	3	15-19歳	1	21	55-59歳	-	2	-	-	-	-	1
20-29歳	176	20歳以上	3	8	91	2,573	11	88	-	6	6	6	20-29歳	2	54	60-64歳	-	1	-	-	-	-	-
30-39歳	80												30-39歳	4	61	65-69歳	-	-	-	-	-	-	-
40-49歳	61												40-49歳	5	63	70歳以上	6	1	1	-	-	-	2
50-59歳	45												50-59歳	3	48								
60-69歳	28												60-69歳	-	18								
70-79歳	8												70歳以上	2	31								
80歳以上	5																						
合計	1,068	合計	4,576	969	1,963	41,675	785	11,433	126	2,395	2,145	344	合計	53	373	合計	8	22	8	-	-	2	4

(-:0)

4) 感染性胃腸炎

第1週～52週の累積患者報告数は41,675例であった。定点当たり報告患者総数263.77は前年と比べ増加した。冬季流行は10月以降に緩やかに始まり、定点当たり報告数の最大値は第51週(12/19～25)の10.44であった。冬季以外では、5月から7月にかけて報告数がやや多い状況が続いた。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、6歳以下が74.9%を占めた。

5) 水痘

第1週～第52週の累積報告患者数は785例であった。定点当たり報告患者総数4.97は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は第45週(11/7～13)の0.23で、2020年4月以降0.50を下回る水準で推移している。年齢階級別では全ての階級で報告があり、10歳未満では、7歳が最も多かった。

6) 手足口病

第1週～52週の累積報告患者数は11,433例であった。定点当たり報告患者総数72.36は前年と比べ大きく増加した。流行は2019年以来で、第30週(7/25～31)から第40週(10/3～9)まで警報が発令された。定点当たり報告数の最大値は第31週(8/1～7)の7.10であり、過去の流行年と比較すると小規模な流行であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～3歳で全体の77.6%を占めた。

7) 伝染性紅斑

第1週～52週の累積報告患者数は126例であった。定点当たり報告患者総数0.80は前年と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は第30週(7/25～31)の0.06で、年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった。年齢階級別では1歳が最も多く、次いで2歳と続いた。

8) 突発性発しん

第1週～52週の累積報告患者数は2,395例であった。定点当たり報告患者総数15.16は前年と比べ減少した。定点当たり報告数は1月から3月は例年同様の動向が観察されたが、4月以降は例年よりやや少ない水準で推移した。定点当たり報告数の最大値は第17週(4/25～5/1)の0.49であった。年齢階級別では、例年同様に1歳が最も多く、2歳未満で全体の80.0%を占めた。

9) ヘルパンギーナ

第1週～52週の累積報告患者数は2,145例であった。定点当たり報告患者総数13.58は前年と比べ増加した。流行の規模は中程度の流行年であった2017年よりも小さく、小規模であった。流行は7月から9月に観察され、定点当たり報告数の最大値は第31週(8/1～8/7)の1.36であった。年齢階級別では全ての年齢階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～3歳で全体の74.5%を占めた。

10) 流行性耳下腺炎

第1週～52週の累積報告患者数は344例であった。定点当たり報告患者総数2.18は前年より減少した。定点当たり報告数の最大値は、第28週(7/11～17)、第35週(8/29～9/4)及び第46週(11/14～20)の0.08で、年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった。年齢階級別では6か月未満を除く階級で報告があり、5歳が最も多く4歳～9歳で全体の74.1%を占めた。

(3) 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

第1週～52週の累積報告患者数は53例であった。定点当たり報告患者総数1.36は前年と比べ増加した。報告は年間を通して断続的に観察された。定点当たり報告数の最大値は、第24週(6/13～19)の0.18であった。年齢階級別では、2歳、1歳、4歳の順に多く、1歳～4歳が全体の54.7%を占めた。



表4 定点把握対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	24	2.18	4	0.36	1	0.09	144	2.48	53	0.91	22	0.38	40	0.69
2月	23	2.09	-	-	-	-	131	2.22	34	0.58	20	0.34	29	0.49
3月	19	1.73	1	0.09	-	-	159	2.69	39	0.66	26	0.44	32	0.54
4月	25	2.27	1	0.09	-	-	133	2.29	34	0.59	18	0.31	20	0.34
5月	16	1.45	-	-	2	0.18	136	2.34	51	0.88	18	0.31	20	0.34
6月	22	2.00	1	0.09	2	0.18	136	2.31	46	0.78	21	0.36	32	0.54
7月	30	2.73	-	-	-	-	132	2.24	42	0.71	25	0.42	26	0.44
8月	22	2.00	3	0.27	-	-	131	2.22	43	0.73	24	0.41	31	0.53
9月	28	2.55	-	-	-	-	139	2.40	47	0.81	16	0.28	45	0.78
10月	21	1.91	2	0.18	-	-	130	2.24	33	0.57	15	0.26	33	0.57
11月	28	2.55	1	0.09	-	-	127	2.15	41	0.69	15	0.25	32	0.54
12月	21	1.91	3	0.27	-	-	115	1.95	32	0.54	15	0.25	26	0.44
2022年 計	279	25.36	16	1.45	5	0.45	1,613	27.57	495	8.46	235	4.02	366	6.26
2021年 計	246	22.36	21	1.91	3	0.27	1,637	27.89	496	8.45	250	4.26	434	7.39
2022年/2021年比	1.1	1.1	0.8	0.8	1.7	1.7	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8

(-:0)

2) 流行性角結膜炎

第1週～52週の累積報告患者数は373例であった。定点当たり報告患者総数9.56は前年と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は第23週(6/6～12)の0.40で、定点当たり報告数は年間を通して大きな変動は観察されなかった。年齢階級別では、全ての階級で報告があり、10歳未満では3歳、4歳及び9歳の順に多く、20歳以上では40歳代、30歳代の順に多かった。

(4) 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

第1週～52週の累積報告患者数は8例であった。定点当たり報告患者総数0.73は前年と比べ減少した。報告は散発的で、1例(定点当たり報告数0.09)の報告があった週が8週あった。年齢階級別では、70歳以上で6例(75.0%)、0歳で2例(25.0%)の報告があった。

2) 無菌性髄膜炎

第1週～52週の累積報告患者数は22例であった。定点当たり報告患者総数2.00は前年と同水準であった。報告は年間を通して断続的に観察され、52週のうち18週で1例～3例の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第40週(10/3～9)の0.27であった。年齢階級別では20歳未満が31.8%、20～70歳未満が63.6%、70歳以上が4.5%であった。

3) マイコプラズマ肺炎

第1週～52週の累積報告患者数は8例であった。定点当たり報告患者総数0.73は前年と同水準であった。報告は散発的で、1例(定点当たり報告数0.09)の報告があった週が8週あった。年齢階級別では1-4歳が4例で最も多く、20歳未満が全体の62.5%を占めた。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

第1週～52週の患者の報告はなかった。報告患者数は2018年が4例、2019年が1例で、2020年以降は報告がない。

5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)

第1週～52週の累積報告患者数は2例であった。定点当たり報告患者総数0.18は前年と同水準で、初春から

初夏にかけての流行は観察されなかった。報告患者数は0歳及び1-4歳で各1例であった。

6) インフルエンザ(入院患者)

2022年第1週～52週の累積報告患者数は4例であった。定点当たり報告患者総数0.36は前年と同水準であった。2021-2022シーズンに報告はなく、2022-2023シーズンは2022年第50週(12/12-18)以降に4例の報告があった。報告患者数は70歳代で2例、5-9歳及び55-59歳で各1例であった。

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

1月～12月の累積報告患者数は279例であった。定点当たり報告患者総数25.36は前年に比べわずかに増加した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値1.45、最大値2.73の範囲で推移した。最大値は前年の最大値3.27を下回った。年齢階級別では、70歳以上が202例(男114例、女88例)で最も多く、全体の72.4%を占めた。

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

1月～12月の累積報告患者数は16例であった。定点当たり報告患者総数1.45は前年と比べわずかに減少した。報告は年間を通して断続的に観察され、定点当たり報告数は最小値0.00、最大値0.36の範囲で推移した。最大値は前年の最大値0.36と同値であった。年齢階級別では、70歳以上が8例(男7例、女1例)で、全体の50.0%を占めた。

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

1月～12月の累積報告患者数は男5例であった。定点当たり報告患者総数0.45は前年と同水準であった。報告は5月及び6月に各2例、1月に1例で、定点当たり報告数の最大値0.18は、前年の最大値を上回った。年齢階級別では、70歳以上が3例、55-59歳が2例であった。

(5) 性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

1月～12月の累積報告患者数は1,613例(男492例、女1,121例、性比0.44)であった。定点当たり報告患者総数27.57は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値1.95、最大値2.69の範囲で推移した。報

表5 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

年齢階級	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ヘビシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	3	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	5	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	2	-	-	-
15-19歳	1	-	-	-	-	-	20	107	3	17	1	9	15	17
20-24歳	1	2	-	-	-	-	126	350	15	65	9	40	56	32
25-29歳	2	6	1	-	-	-	91	320	8	54	13	40	43	30
30-34歳	-	1	-	-	-	-	78	157	10	65	8	21	27	7
35-39歳	1	3	-	-	-	-	46	82	12	47	7	19	32	8
40-44歳	4	-	-	-	-	-	43	48	13	25	19	3	31	4
45-49歳	5	-	-	-	-	-	43	24	17	32	7	5	24	5
50-54歳	2	5	1	-	-	-	20	20	6	41	11	5	11	1
55-59歳	6	5	-	-	2	-	11	6	7	18	5	4	9	2
60-64歳	8	3	-	-	-	-	10	4	2	11	3	1	4	1
65-69歳	7	1	-	-	-	-	4	-	2	9	1	1	5	-
70歳~	114	88	7	1	3	-	-	-	4	10	1	2	2	-
合計	163	116	12	4	5	-	492	1,121	99	396	85	150	259	107
男女比	1.41	1.00	3.00	1.00			0.44	1.00	0.25	1.00	0.57	1.00	2.42	1.00

(-:0)

告患者は、男では20-24歳(126例)、25-29歳(91例)及び30-34歳(78例)が多く、男全体の60.0%を占めた。女では20-24歳(350例)及び25-29歳(320例)が多く、女全体の59.8%を占めた。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

1月~12月の累積報告患者数は495例(男99例、女396例、性比0.25)であった。定点当たり報告患者総数8.46は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値0.54、最大値0.91の範囲で推移した。報告患者は、男では45-49歳が17例で最も多く、20歳から49歳が75.8%を占めた。女では20-24歳及び30-34歳の各65例が最も多く、20歳から39歳が58.3%を占めた。

3) 尖圭コンジローマ

1月~12月の累積報告患者数は235例(男85例、女150例、性比0.57)であった。定点当たり報告患者総数4.02は前年と比べわずかに減少した。定点当たり報告数は最小値0.25、最大値0.44の範囲で推移した。報告患者は、男では40-44歳が19例で最も多く、次いで25-29歳が13例が多かった。女では20-24歳及び25-29歳の各40例が多く、20歳から39歳が80.0%を占めた。

4) 淋菌感染症

1月~12月の累積報告患者数は366例(男259例、女107例、性比2.42)であった。定点当たり報告患者総数6.26は前年と比べわずかに減少し、過去最少となった。定点当たり報告数は最小値0.34、最大値0.78の範囲で推移した。報告患者は、男では20-24歳が56例で最も多く、20歳から49歳が82.2%を占めた。女では20-24歳が32例で最も多く、15歳から29歳が73.8%を占めた。

(6) 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2022年、埼玉県における発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であ

り、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができな

いと判断したものの届出はなかった。

まとめ

2022年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について、各疾患別にその動向をまとめた。

新型インフルエンザ等感染症の新型コロナウイルス感染症は1,514,702例の届出があり、前年より大幅に増加した。

全数把握対象疾患の二類感染症では、結核が758例の届出があった。結核患者数は517例で、緩やかな減少傾向にある。

三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は前年に比べ増加した。2020年以降増加傾向にあり、2019年以前の例年の報告数に戻りつつある。

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、オウム病、デング熱、マラリア、レジオネラ症の計6疾患の届出があり、蚊を媒介とする輸入感染症の総数は増加傾向にある。

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(入院例)、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症の計19疾患の届出があった。梅毒は468例の届出があり、感染症法に基づく調査が開始された1999年以来、最大となった。省令の改正により2018年に全数把握対象疾患に移行された百日咳の届出数は3年連続で減少した。

定点把握対象疾患の定点当たり報告患者総数が前年より増加した疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、急性出血性結膜炎、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症であった。特にインフルエンザは

2019年-2020年シーズン以来、手足口病は2019年以来の流行があった。

### 文献

- 1) 厚生労働省：オープンデータ，  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>（参照2023年2月16日）